

+ 輸血情報

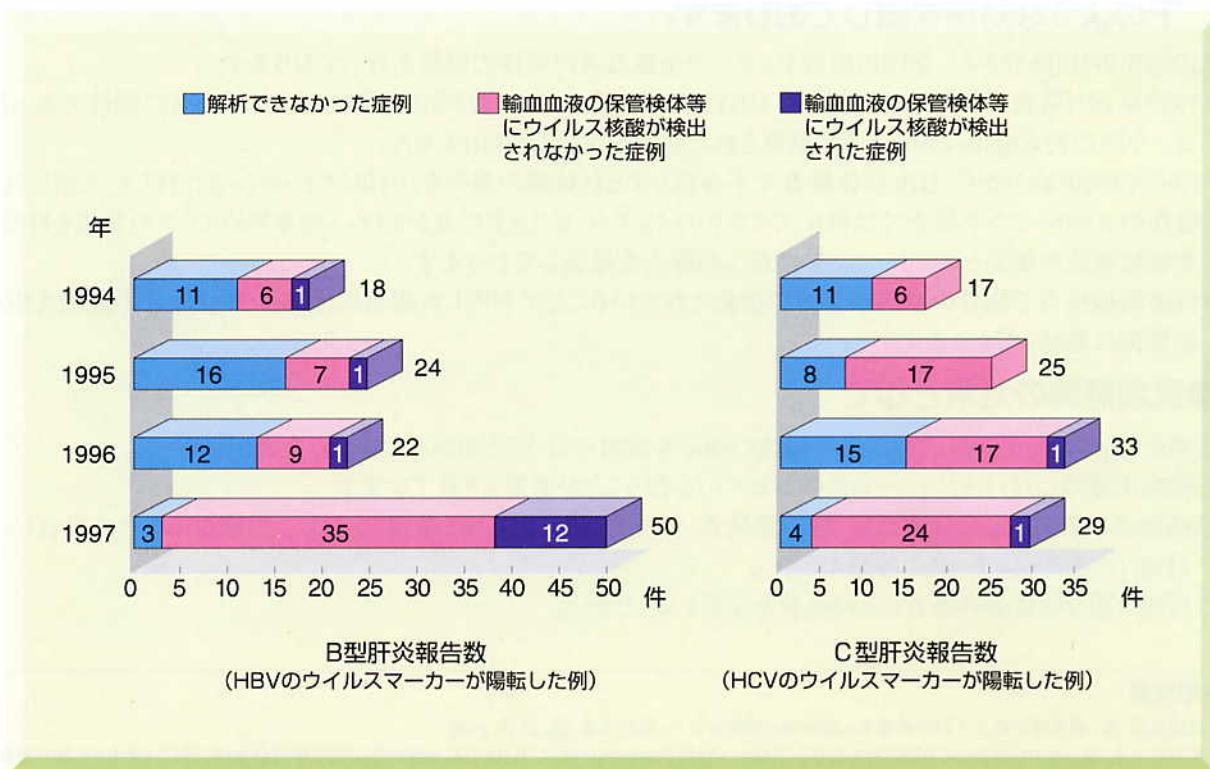
【輸血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された肝炎症例】

輸血後肝炎は、血液センターにおけるスクリーニング検査の導入・改善と成分献血・400mL献血の推進等により大幅に減少しました。

1994～1996年の3年間に輸血後肝炎の疑いとして血液センターに報告された症例の中で、輸血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例はB型3例、C型1例のみでした。しかし、輸血への関心の高まりを背景とした報告件数の増加と、全国の血液センターで全献血者の検体の保管を始めたことから解析可能数が増え、1997年にはそのような症例はB型12例、C型1例となりました。それらは、現在のスクリーニング検査では排除できないウィンドウ・ピリオドに献血された血液が主な原因と考えられました。

1994～1997年までの症例についてその概要を以下にご報告し、輸血の「インフォームド・コンセント」にお役立ていただくとともに、患者さんの輸血後の検査及び輸血前検体の保管などのご協力をお願いいたします。

●輸血後肝炎の疑いとして血液センターに報告された数とその解析結果(1994～1997年)¹⁾



●患者情報等（1997年）

5例（No.4,6,8,10,11）に6カ月以上の持続感染がみられていますが、5例（No.1,2,3,7,9）は軽快いたしました。なお、劇症肝炎はありませんでした。

また、現在のスクリーニング検査では排除できないウインドウ・ピリオドに献血された血液が主な原因と考えられました。

症例 No.		原疾患	輸血用血液 [※]	年齢 (歳)	性別	期間 ^{※※} (週)	ALT [最高値] (IU/L)	経過
B型	1	急性骨髄性白血病	PC	38	男	14	557	軽快
	2	解離性大動脈瘤	FFP	59	男	26	877	軽快
	3	卵巣癌	FFP	46	女	28	261	軽快
	4 ²⁾	再生不良性貧血	PC	23	男	8	556	6カ月以上持続感染
	5 ³⁾⁴⁾	骨髄異形成症候群	PC	71	男	12	997	原疾患により死亡
	6	急性未分化白血病	RC-M・A・P	23	男	30	19	6カ月以上持続感染
	7 ⁵⁾	腹部大動脈瘤	RC-M・A・P	74	女	12	1,056	軽快
	8 ⁶⁾	EBV関連血球貪食症候群	PC	12	男	24	619	6カ月以上持続感染
	9	胃潰瘍	FFP	69	男	31	477	軽快
	10	赤芽球ろう	LPRC	51	女	58	197	6カ月以上持続感染
	11 ⁷⁾	狭心症	WB	78	女	20	520	6カ月以上持続感染
	12	胃癌	RC-M・A・P	57	男	22	1,207	不明
C型	1	急性リンパ性白血病	FFP	70	女	27	254	不明

※ 保管検体等にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類

※※ 輸血日から感染が判明したときまでの期間

●日本赤十字社は、輸血用血液及び血漿分画製剤の安全性を更に向上させるために以下のような対策を講じております。

- ・1996年9月採血分から、全国の血液センターで全献血者の検体の保管を行っております。
- ・1996年10月検査分から、HIV、HCV、HBV、HTLV-1についての判定結果が前回の献血時に陽性であった場合には、今回の判定結果にかかわらず献血された血液を供給しておりません。
- ・1997年6月供給分から、HBc抗体検査で不合格とする抗体価の基準を「64倍以上」から「32倍以上」と厳しくしました。
- ・現在のスクリーニング検査では検出できないウインドウ・ピリオドにあるウイルスや変異ウイルスの検出を目指し、核酸増幅検査法の開発とスクリーニング検査への導入を推進しております。
- ・核酸増幅検査で陽性の血液がすでに供給されていることが判明した場合には、速やかに、その血液を供給した医療機関に連絡しております。

●医療機関の対策として

- ◎適正輸血のガイドライン⁸⁾等に沿い輸血の適応を厳密に行うことが求められています。
- ◎輸血実施時には、「インフォームド・コンセント」を行うことが必要とされています。
- ◎輸血後の患者さんの経過観察（肝機能検査、ウイルス関連マーカー検査）を行い、異常がみられた場合には直ちに最寄りの血液センターにご連絡ください。
- ◎可能な限り輸血前の患者さんの血液を保管してください。

■参考文献

- 1) 高橋雅彦, 他; 輸血感染症とその評価基準—副作用の解析から—, 血液事業, 21, 17-27, 1998.
- 2) 和田恵美子, 他; 血小板輸血後、B型肝炎を発症した再生不良性貧血症例の検討, 第106回日本輸血学会関東甲信越支部会例会(平成9年度長野県輸血懇談会)抄録, p11, 1997.
- 3) 百瀬俊也, 他; PCR法でも見出せないウインドウ期の血液が原因と考えられる輸血後B型肝炎症例, 日本輸血学会雑誌, 44, 152, 1998.
- 4) 松本千恵子, 他; ウインドウ期献血によるHBV感染: PCR プライマー領域に変異のあったHBVのDNA解析, 日本輸血学会雑誌, 44, 152, 1998.
- 5) 腰原公人, 他; 輸血が原因でB型肝炎が発生したと思われる急性肝炎の1症例, 日本輸血学会雑誌, 44, 149, 1998.
- 6) 竹内治子, 他; 血球貪食症候群に合併したウインドウ期の血小板製剤の輸血でキャリアとなったB型肝炎の一例, 日本小児科学会雑誌, 102, 274, 1997.
- 7) 米倉光代, 他; 輸血により発症したと考えられるB型、G型肝炎の2例, 臨床検査技師学会抄録, 1998.
- 8) 厚生省健康政策局; 輸血療法の適正化に関するガイドライン, 1989.

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部
〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
秀和芝パークビルB館14階
TEL 03-5733-8226 FAX 03-5733-8235

■ご注文・お問い合わせ